



2008年12月18日

VOL. 25

とっとり・グローバルウォッチ

とっとり貿易支援センター情報誌

「食のみやこ鳥取県in上海」結果報告

県内企業8社・1団体が出展、上海で県産品をアピール

今月上旬、中国上海市で「食のみやこ鳥取県in上海推進事業」(FHC CHINA 2008 出展及び個別商談会)を開催し、県内企業が中国華東市場への販路拡大に挑戦した。

なお、本事業は鳥取県から業務受託し、県内企業の海外展開への支援を実施したものである。

■鳥取県内出展企業(8社、1団体)

企業名	主な出展商品
(有)AONケミカル	二十世紀梨酢など
(株)越河	冷凍水産加工品
境港水産物輸出入促進協議会	冷凍水産加工品
(株)澤井珈琲	コーヒー
(株)ゼンヤクノー	健康茶
千代むすび酒造(株)	日本酒、焼酎、梅酒
中井酒造(株)	日本酒、リキュール
(株)ファイナル	健康茶
丸京製菓(株)	和菓子

※境港水産物輸出入促進協議会からは、(株)島谷水産、北陽冷蔵(株)、(有)小倉水産食品、(株)福栄が出展。

※(株)ファイナルは商談会のみに参加。

■中国最大の食品見本市に出展

FHC CHINA 2008 は、12月4日(木)～6日(土)、上海新国際博覧中心にて開催された。本見本市は中国バイヤーに高品質な海外ブランド食品や飲料の購買機会を提供することを目的に開催され、12回目となった今年は31ヶ国から805の出展者が参加、3日間で20,441人の来場者があった。

会期中は多くのバイヤーが鳥取県ブースを訪れ、出展企業は試食試飲をしてもらい積極的に自社製品をPRし、商談を行っておられた。

■鳥取県産食材に舌鼓

FHC CHINA 2008 出展に続き、12月8日(月)には上海市内のホテルで個別商談会(名称：鳥取県産食品輸出個別商談会in上海)を開催し、貿易公司、料理店、量販店等のバイヤー27社と商談を行った。昼食には、松葉ガニや二十世紀梨酢を原料とした料理など鳥取県産食材を用意し、来場したバイヤーに試食をしていただいた。

■事前の物流ルート構築が功を奏す

今回のFHC CHINA 2008 及び商談会においては、当財団の上海コーディネーター(チャイナワーク)との連携のもと、事前の物流ルート構築や有望バイヤーへの事前訪問、DM送付等各種の準備が功を奏し、各企業ともスムーズに商談を行うことができた。

今回の商談で可能性が高い案件を一つでも多く成約に結びつけるため、とっとり貿易支援センター(鳥取県産業振興機構、ジェットロ鳥取、さかいみなと貿易センター、境港貿易振興会)やチャイナワークが引き続きフォローアップしていきたい。



当財団出展ブースの様子

【(財)鳥取県産業振興機構
海外支援グループ 早川】

目次

「食のみやこ鳥取県in上海」結果報告	P 1
公郵料理人から見たウズオストクの食事情	P 2
最新の上海～現地レポート～⑨	P 3
現地発！台湾月刊レポート⑩	P 4
中国広州自動車展示会 出展報告	P 5

公邸料理人から見たウラジオストクの食事情

日本からウラジオストクへの食品輸出の可能性②

■ウラジオストク市民の日本に対する意識

皆さんは、ウラジオストクに行ったことはありますか？私はウラジオストクに着任する前までは全くロシアという国に関心がなく、着任が正式に決まってからウラジオストクのことを調べたことを今では懐かしく思います。日本人の年配の方に聞きますと、軍艦の町や閉鎖都市のイメージが強く、私の年代ではその存在すら知らない方が多いようです。

現在、ロシアは石油や天然ガスといった資源の豊富さを背景に、いわゆるBRICs(ブリックス)と呼ばれる新興経済国の一つとして、さらにはG8としての役割に対して世間から注目を集めていますが、私が肌で感じる限り、先進国ではなく、まだまだ開発途上国であると考えています。

私が子供の頃のロシアのイメージは、オリンピックでの活躍や宇宙開発計画など、米国と肩を並べる大国というものでした。しかしながら、ソ連崩壊後、ロシア国内の映像がいろいろ放映され、そのイメージとのギャップに、子供心にびっくりしたものです。現在は、相撲力士の大麻事件やグルジアを巡る紛争、ガス供給の停止などあまり良いニュースを聞かないこともあり、残念ながら、日本人のなかには、ロシアに対して良いイメージを持っていない方も少なくないと思います。

ですが、ウラジオストクの方は日本に大変関心が強く憧れまで抱いている方が多いようです。近年、日本語を学ぶ学生も非常に多く、英語よりも日本語が通じることも多々あります。また自営業をされている方も日本の中古車、自動車部品に関係する職を持つ方がたくさんいます。これは、自動車を始めとする日本製品への性能、信頼への評価が高いことが背景にあると思います。

鳥取を始めとする中国地方ではあまりロシア人を見る機会は少ないと思いますが、新潟、富山、北海道に足を運びますと、多くのロシア人に出会う機会があり、レストランなどではロシア語のメニューがあるほどです。日本に来ているロシア人が帰国するとき、荷物と一緒に、大量のイチゴ、リンゴなどのフルーツを手に入れているのをよく見かけます。



冬のウラジオストク

さて、ウラジオストクの市内を歩いていますと、お前は中国人、ベトナム人か？とよく聞かれます。相手に日本人であることを伝えると好意を持たれることも多くあります。またテレビを見ていると、頻繁に日本のことを放映しており、日本への関心が年々高まっているのを肌で感じます。ちなみに、日本を訪れたロシア人に日本の印象を尋ねると、1番に返ってくる答えは「安全な国」、2番目は「人が親切」、3番目は「食べ物おいしい」とほめ言葉が並びます。

■ウラジオストクと日本との交流状況

私がウラジオストクに着任して2年半が過ぎようとしています。日本とロシアとの文化交流は大変盛んで、これには総領事館も力をいれており、最近では生け花、茶道教室、歌舞伎、和太鼓の公演などが精力的に行われています。私が行っている日本料理講習会やデモンストレーションもその一つです。先日、大阪から茶道の先生がお越しくださり、私もお邪魔させていただいたのですが、連日大勢の方が来られ、ロシア人の日本への関心の高さに驚きました。また、近年日本でもロシア語を勉強する方も増えてきており、語学交流も盛んに行われていますし、日本企業の進出も進んでいます。

そもそも、日本から飛行機で2時間も飛ばばウラジオストクに着いてしまうこともあり、ロシアは韓国や中国と同じく「隣国」に位置します。

明治維新後は大勢の方が出稼ぎのためにウラジオストクやその周辺に来ていた歴史があり、この町にも日露戦争勃発までは日本人街があり、非常に日本との関係が深い場所でした。以後、ソ連時代の閉鎖都市として隠された場所ではあったんですが、現在さまざまな形で日本と交流が行われています。まだまだ韓国や中国などの他の隣国と比べましても交流は少なく、これからだと感じる状況ではありますが、ロシア人が持っている日本に対する好意的なイメージは、今後の交流発展が期待できる環境です。

<次号へ続く>



今年10月に行われた生け花講習会の様子

【在ウラジオストク日本国総領事公邸料理人、
とっとりふるさと大使 末広 亮】

最新上海 ～現地レポート～ ⑨

自動車市場と周辺問題

第6回中国（広州）国際モーターショーが11月25日、7日間の会期にて終了した。『科学技術が未来を切り開く』のテーマで開催された今回のモーターショーは、出展企業600社、700台以上の自動車が展示された。来年4月上海で開催されるモーターショーでは、ジェトロ主催にて日系企業自動車部品調達・販売展示会も行われるかもしれないという。今回のレポートは、中国・上海の自動車市場について紹介したい。

本誌20号でもお伝えしたが、中国のナンバープレートはオークションによって販売される。上海では、昨年10月には50,000元（≒680,000円）を超える落札価格を記録したが、今年11月のオークションでの平均価格は、前月10月より8,873元（≒120,700円）低い24,351元（≒331,200円）。世界金融危機が自動車などの大型消費品の購入を渋らせているという見方が強い。そんななか10月の国別ブランドセダン販売状況を見てみると、日系ブランドが健闘している。なおセダンの販売台数はほかのどの車種よりも多く、全体の72.47%を占めている。

—10月度セダン販売台数—

国別ブランド	台数（割合）
中国	11.29万台（27.57%）
日本	12.95万台（31.62%）
ドイツ	7.90万台（19.29%）
アメリカ	4.39万台（10.72%）
韓国	3.00万台（7.33%）
フランス	1.42万台（3.47%）

■自動車周辺問題

上海における自動車周辺の問題としてあげられるのは、駐車場の不足である。上海市第3次総合交通調査の統計によると、現在約6万台分の公共駐車場が不足しているという。2007年末上海における自家用車保有台数は60万台であり、年間15%の割合で増加している。これに対して駐車可能なスペースは上海市内では20.9万台。さらにこれが上海万博開催の2010年になると12万台に達すると見られている。上海万博開催時にはおよそ7,000万人以上が訪れ、1日平均40万人の訪問者があると予測されており、交通状況がますます厳しくなるのは避けられない状況である。関連部門は、公共交通網の整備や公共駐車場の拡充、P+R（パークアンドライド）方式などの対策を進めている。

駐車場不足の問題のほかに上海では交通渋滞も挙げられるが、首都の北京でも同様の問題が起きている。北京市での自家用車保有台数は今年7月末現在148万台。出勤時の渋滞が大きな問題になっている。このことから北京オリンピック開催の際は、ナンバープレート末尾の奇数・偶数による規制を行った。しかしこの問題に頭を抱えながらも、北京市政府は内需拡大や国民経済の穏やかで比較的速い成長を促進するという局面から、自動車産業の長期的発展の必要性が高く、自動車保有量や自動車

購入、ナンバープレート発給を規制するのは不適切という考えを発表している。自動車市場が今の中国の発展には切っても切れないものになっている。

■環境対策自動車

昨年11月より、『新エネルギー自動車生産新規参入管理規則』（新能源汽车生产准入管理規則）が施行され、自動車メーカーなどに対して新エネルギー自動車の促進を推奨している。ここでいう新エネルギー自動車とは、ハイブリッドカーや純電動式自動車、燃料電池式自動車などとしており、ガソリンや軽油、天然ガス、LPガスといった燃料を使用するものは含まないと明記している。

前述の広州国際モーターショーでは、中国市場の今後を想像させる自動車が展示された。そのうち中国自動車メーカーの1つ比亞迪汽車（BYDカー）は、省エネ環境エンジンを搭載した新型自動車を発表。この自動車は電気自動車（EV）とハイブリッドカー（HEV）の混合車で、この種の新エネルギー自動車販売は国内初である。1度の充電で100kmの走行が可能であり、家庭での



公共路面駐車場。至る所にある。

充電であれば9時間程度で充電が可能であるという。このことで自動車市場全体の動きが変わることが予想される。今後は新エネルギー自動車技術の競争になるだろう。

上海では嘉定区や松江区等郊外に繋がる地下鉄などの公共交通網が整備されており、それに伴い郊外型ショッピングセンターが増えてきている。近隣への交通も整っており、蘇州への高速道路も来年12月にはもう1路線開通する予定だ。これまでは長期休暇を海外で楽しむ人たちが少なくなかったが、金融危機やオリンピック開催などの問題により、今年国慶節の海外旅行者数は例年より減少したとの話を旅行会社から伺っている。しかし商務部の調べによると、期間中の小売売上高は約4,200億元（≒57,120億円）と前年同期比で21%増加しており、宝飾品、家電、体育用品などの消費が拡大、大型ショッピングセンターの客足も通常の2～3倍だったとの報告がある。このようなことから、休暇中や週末などマイカーでの新しい楽しみ方が増えてくるのではないかと思う。

環境に関する自動車メーカーの取組みや交通渋滞・駐車場問題などに対する政府の対策によって、自動車市場も変化するだろう。それに伴って国民の生活スタイルも変化していくはず。この先5年後、10年後の中国、上海がどのように変わっているのか、楽しみで仕方がない。

（文書中、1元＝13.6円にて計算）

現地発！台湾月刊レポート⑱

もうひとつの定額給付金

台湾でも日本の定額給付金を真似し「消費券」を発行することになった。

日本でも二転三転、ドタバタしているのに、それを真似した台湾は、もっとひどいことになった。しかし発行のスピードは、台湾の産業と同じ。意思決定したら、すぐに行く。

■スピード感が台湾経済の強い一面

当初、各世帯に1万円を給付する案が有力だった。所得制限は年収120万円とする。この後から揉め始めた。コストがかかるプリペイド式は、偽造が防げる。しかし偽造も可能な(台湾ジョーク)100元額面の消費券とする。使用期限は半年、1世帯当たり1万円、旧正月前の給付とすることでほぼ合意した。また、所得制限は反対意見が多く中止へ。消費券発行の目的は消費刺激であって生活支援ではない。馬総統も消費券を寄付すると言っていたのだが、消費刺激という本来の目的を理解していないことを露呈し、結局「自分で何か買います。」と発言修正するはめになった。購入商品に制限は加えないが、消費は営業登記した商店に限られる。消費できないものは、宝くじ、学費、投資信託、鉄道切符、切手、電気、水道料、電話代など。しかしまた迷走する。

台湾のドタバタを見ていると、一般民衆個人の意思決定の早さにも驚く。台湾政府は、当初一家庭に一給付することに決定した。すると利にさとい台湾人が走った。すぐに市役所に行ったのだ。そう、家族一人一人の世帯分離をするために。窓口は、大混乱。その気持ちも理解できるが、ニュースを見た瞬間、まだ決定もしていない配布方法であるのに、住民票を変更しに行くスピード感は、農耕民族である日本人にとって絶対についていけない。結果、迷走台湾政府は、一人一人に配布することに決定した。すると世帯合併の届出が急増。これが、台湾人である。

最終決定したことは、額は、毎個人に3600元とする。予算総額は、840億元弱(日本円で2500億円)。来年、旧正月の直前に発行し消費刺激をすること。使用期限は、来年9月まで。発行資格は今年の3/31までに生まれた子供以上とすること。これは、大事である。台湾人であったら、消費券のために今から子供を作ろうと考える人も出てくるかもしれないからだ。この発行コストは、3%以内(約25億元)。理論上、消費券の使用により台湾GDPは、0.64%押し上げられる。

しかし全部使い切ることはなく、50%以上の使用率と見て、0.3%程度の押し上げ効果と見ている。私の意見だが、この50%程度の使用率しかないのではないかと計算することが理解できない。選挙になると80%も投票に行く人たち。絶対に使い切ると思うのだが...。ここに記し来年の結果を精査してみたいと思う。この政策に関し、一般人の意見はというと、どちらかというと反対意見が多いように感じる。

■賛成意見

- ・もらえるものは、もらった方が良いに決まっている。これをもらえば、誰だって物を買うし、消費刺激ができるに決まっている。
- ・経済は、銭が回って良くなるもの。台湾の預金現金残高は、9月から10月にかけて3500億元も増えた。この金融恐慌では、みな預金をするのだから金を使わせる政策は、正しいに決まっている。

■反対意見

- ・消費の習慣は消費券で変わるものじゃない。毎日1杯のコーヒーを飲む人が消費券があるから2杯を飲むことはないだろう。経済なんか刺激することにはならない。この予算を土木工事に使うほうが効果がある。政府は、こんな簡単なこともわからないのか。アホらしい。
- ・ガス代とか電気代とか、みんなが使用する物の値段をさげればいいんじゃないか。
- ・こんな小手先のことをやるものじゃない。ちゃんと正面から経済政策を見つめるべきだ。今、台湾は、金持ちと貧乏人にはっきり分かれている。金持ちが、貧乏人から金を巻き上げるシステムになっている。これを修正すべきではないのか。

日本と台湾の、この似たもの政策は、どうなるのか。スピードと結果をじっくりと見守りたい。

さて、その他のニュースでは、馬総統の支持率が、過去最低になる37%に落ちた。景気の急激な減速が不満を増加させている。ちなみにNHK調査による麻生内閣の支持率は20%台。台湾第三4半期のGDPは、当初見込みの4.30%から1.87%に下方修正した。失業率も10月は47万6000人で、9月より1万2000人増加。4.37%となった。ちなみに日本の10月の完全失業率は季節調整値で3.7%である。

景気が良い話では、以前、書いたように、台湾の自転車メーカーが絶好調である。驚くことに、ジャイアントの年末ボーナスは、23ヶ月だそう。台湾は、毎月の給与に対して、何ヶ月分かの金額を年末賞与として従業員に払う習慣がある。よって、毎月の給与が、20万円の人は、460万円のボーナスをもらえることになるのだ！羨ましい。



写真：秋の台湾東部南横公路に登山。気温は零下。

【(株)スナーク 富田】

中国広州自動車展示会、出展報告

中国華南市場へ新たな挑戦！

平成20年11月19日（水）～23日（日）、中国広州市で開催された「2008日系自動車部品調達展示販売会at広州モーターショウ（JAPPE 2008）」に当財団が初めて出展し、鳥取県内企業4社が中国華南市場への販路拡大に挑戦した。

本展示会は、「第6回広州モーターショウ」の中の日系オートパーツエリアとして運営された「フェアインフェア」で、日系自動車部品の展示商談に焦点を絞ったイベントである。5回目となる今年は過去最多となる215社が出展し、5日間で22,997人の来場者があった。

世界の自動車市場が低迷するなか、中国国内では環境や省エネに配慮した高品質な部品が求められていることを機に、出展企業は自ら他のブースへ営業に行くなど積極的に自社製品をPRされ、全般的に今後に繋がる手ごたえを感じられたようだった。出展企業からは、「輸出へのきっかけ作り、情報収集ができた。広

州には大きな潜在需要がある。」「求めている客層であるバイヤーと話ができ、今後の商談機会ができた。」などの声をいただいた。

当財団では、今回の商談が1件でも多く成約に結びつくよう、今年4月より中国に配置した海外コーディネーターの協力を得て各出展企業のフォローを行い、更なる海外販路拡大を目指していきたい。



JAPPE 2008 会場内の様子

◆当財団出展概要

出展企業名	主な出展商品
アイム電子(株) (鳥取市)	インパネスイッチ、キーレスエントリー他車載用基板及びユニット完成品
(株)内田スプリング 大山工場 (伯耆町)	サスペンションスプリング
(株)ビック・ツール (日吉津村)	段付き研磨機、超小径研磨機、エンドミル研磨機、ドリル研磨機
(株)レクサー・マトリクス (鳥取市)	GP4 Manufacturing (仮想量試による生産準備効率化、改善フロントローディング)

【(財)鳥取県産業振興機構海外支援グループ 早川】

編集後記

北京オリンピックに世界中が沸いた2008年も、そろそろ終わりに近づきました。私は過去に北京でしばらく過ごしたことがあるので、8月、9月は毎日のようにテレビにかじりつき、“第二の故郷”の様子を眺めていました。

北京ではここ数年、オリンピック開催に合わせて近代化が進み、高層ビルが次々に建設されましたが、その影には、立ち退きを強制され住む所を失った人々が数多くいたそうです。

また、最近の世界的な不景気により、内陸の農村から沿海部へ出稼ぎに来ていた労働者が職を失い、毎日数万人が農村へ帰っているとも聞きます。

まだまだ発展の余地がある中国ですが、輝かしい“光”の部分のみではなく、“影”の部分に目を向けることも忘れてはいけません。【r】

『とっとり・グローバルウォッチ』では、皆様から、内容のご提案や掲載されている情報へのご意見・ご感想をお待ちしております。メールでお気軽にお寄せください。また、受信希望（無料）の方は下記までご連絡ください。

お問い合わせ：(財)鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ（担当：早川）

E-mail：kaigai@toriton.or.jp
TEL：0857-52-6703 FAX：0857-52-6782

とっとり貿易支援センター 貿易に関する相談はこちらの窓口へ

【東部窓口】

■(財)鳥取県産業振興機構企業支援部
海外支援グループ

TEL 0857-52-6703

■JETRO鳥取貿易情報センター

TEL 0857-52-4335

【西部窓口】

■(株)さかいみなと貿易センター

TEL 0859-47-3900

■境港貿易振興会

TEL 0859-47-3905

【その他関係機関】

■境港管理組合港湾管理委員会事務局

TEL 0859-42-3705

■JETRO貿易相談デスク

TEL 0859-45-2203